

令和6年11月13日

報道関係者

出版関係者 各位

国立民族学博物館

広報企画会議長 山中 由里子

報道関係者と民博との懇談会のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本館の広報活動については、平素から格別のご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、本館の研究や展示についての旬な話題をよりわかりやすくお伝えするために、標記懇談会を下記のとおり開催いたしますので、ご多用のこととは存じますが、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回の懇談会については、館内の会議室での開催にあわせて、Web 会議システム（Zoom）による配信を行います。懇談会は事前申込制とさせていただきますので、別紙の報道関係者と民博との懇談会参加申込書に必要事項を記載のうえ、11月19日（火）までにメールにてご返信ください。

来館での参加を希望される方は、本紙を印刷、またはスマートフォンで表示した画面を自然文化園窓口（車両の方は迎賓館口）にてご提示ください。同園内を無料でご通行いただけます。

敬具

記

日時：令和6年11月21日（木）15:30～17:00 第1会議室

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続き館長室にてご懇談ください。

○主な話題

- ・ **みんなく映画会 みんなくワールドシネマ「ペトルーニャに祝福を」**（話者：本館准教授 菅瀬 晶子）
- ・ **人間文化研究機構プロジェクト関連 X-DiPLAS シンポジウム**
「地域研究アーカイブ画像の活かし方——地理学と歴史学の視点から考える」
（話者：本館プロジェクト研究員 石山 俊）
- ・ **みんなく創設50周年記念・特別研究国際シンポジウム**
「国家とエスニシティ——ポストナショナリズム時代の関係」
- ・ **最新の研究「現代食文化論」**（話者：本館教授 野林 厚志）
- ・ **最新の研究「記憶と歴史の人類学——東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争移住・他者接触の経験」**
「オセアニア文化事典」
（話者：本館教授 丹羽 典生）
- ・ **最新の研究「産後の〈風〉——病いの語りからみる韓国社会とジェンダー」**
（話者：本館准教授 諸 昭喜）
- ・ **最新の研究「能登半島での文化財救援活動の近況報告」**
（話者：本館教授 日高 真吾）

※話題の詳細については、別紙「話題一覧」をご参照ください。

報道関係者と民博との懇談会参加申込書

報道関係者と民博との懇談会に、

ZOOMにて参加する

来館して参加する

貴社名 _____

御職名 _____

御芳名 _____

メールアドレス (ZOOM 参加者のみ)

(こちらのアドレスに ZOOM のミーティング用 URL を送付します。)

【ZOOM について】

- ・ ZOOM 参加メールは後日に配信します。メールに ZOOM のミーティング用 URL を記載しておりますのでご確認ください。
- ・ 11月21日(木) 15:15 から接続が可能となりますので、参加メールに記載の URL からミーティングルームにお入りください。
- ・ ミーティングルームに入室の際はご所属と氏名をご表示ください。

※事前に ZOOM アプリのインストールをお願いします。

※懇談会開始時に参加者全員に強制ミュートをかけさせていただきます。

※懇談会中はミュート設定をオンにし、音声がでないようにお願いします。

質問や発言をしたい場合、ミュートをオフにいただければ司会者が指名します。

不適切な発言等により進行に支障が生じる場合は退室いただく場合がございます。

令和6年11月21日（木）報道関係者と民博との懇談会
15:30~17:00 於：第一会議室

話題	内容	担当（予定）	予定時刻 （分）	備考
挨拶	ご挨拶	吉田 憲司 館長	3	定例
ニュースリリース	3ヶ月行事予定	山中 由里子 広報企画会議長	2	定例
【 イベント 】				
みんなく映画会	みんなくワールドシネマ「ペトルーニャに祝福を」	菅瀬 晶子 准教授	5	
【 研究 】				
シンポジウム	人間文化研究機構プロジェクト関連 X-DiPLASシンポジウム 「地域研究アーカイブ画像の活かし方——地理学と歴史学の視点から考える」	石山 俊 プロジェクト研究員	5	
シンポジウム	みんなく創設50周年記念・特別研究国際シンポジウム 「国家とエスニシティ——ポストナショナリズム時代の関係」	野林 厚志 教授	5	
最新の研究	「現代食文化論」	野林 厚志 教授	5	
最新の研究	「記憶と歴史の人類学 ——東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争・移住・他者接触の経験」 「オセアニア文化事典」	丹羽 典生 教授	5	
最新の研究	「産後の〈風〉——病いの語りからみる韓国社会とジェンダー」	諸 昭喜 准教授	5	
最新の研究	能登半島での文化財救援活動の近況報告	日高 真吾 教授	5	

合計時間 40 分（予定・質疑応答別）

◆今後の予定
令和6年 12月19日（木）15:30～

報道関係者と民博との懇談会

話題一覧

2024年11月21日(木)15:30~17:00

懇談会

1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子 (議長) —

3. みんなの映画会

『ペトルーニャに祝福を』

高学歴を生かせず不遇なペトルーニャは、手にした者に幸運を授ける十字架を偶然手にします。しかし、十字架は本来男性のみが手にできるものとされていました。この映画から東地中海世界の男性優位主義と一神教の関係を解き明かします。



申込について

事前申込制(先着順)での開催となります。

代表者を含め2名まで申込可能です。

【受付期間】2024年11月11日(月)10:00~12月11日(水)16:00

※申込受付終了後、申込受付終了となります。

申込方法

●イベント予約サイトからの申込

※予約受付終了

<https://entry-reservation-event.minpeku.ac.jp/>

※電話での申込 申込必須事項を必ずお読みください。

※イベント名 ※参加人数(申込人数) ※申込受付終了日

※連絡先(電話番号) ※申込受付終了日 ※申込受付終了日

※申込受付終了日 ※申込受付終了日 ※申込受付終了日

— 菅瀬 晶子 (超域フィールド科学研究部 准教授) —

4. 人間文化研究機構プロジェクト関連 X-DiPLAS シンポジウム

「地域研究アーカイブ画像の活かし方——地理学と歴史学の視点から考える」

X-DiPLAS(学術知デジタルライブラリの構築)の目的は、散逸の危機に直面する地域研究画像資料のデジタル化・データベース化を通じて、画像研究資源のプラットフォームを構築することにあります。このプラットフォームは、画像研究資源を将来世代の研究者に継承するための重要なツールとなりうるでしょう。

日時	2024年12月8日(日)13時30分~17時(13時開場)
会場	本館2階第4セミナー室
解説	石山俊(本館プロジェクト研究員)
研究発表	渡邊三津子(文教大学 准教授)、原隆一(大東文化大学 名誉教授)、吉村武典(大東文化大学 准教授)
コメント	永井正勝(人間文化研究機構/本館 特任教授)、岩谷洋史(姫路獨協大学 講師)
主催	人間文化研究機構 共創先導プロジェクト(共創促進研究)「学術知デジタルライブラリの構築」国立民族学博物館拠点(X-DiPLAS)
定員	対面50名、オンライン100名(要事前申込み/先着順)
参加費	無料
申込期間	12月4日(水)まで



— 石山 俊(グローバル現象研究部 プロジェクト研究員) —

5. みんなく創設50周年記念・特別研究国際シンポジウム

「国家とエスニシティ：ポストナショナリズム時代の関係」

民族の概念は多義的であり、対象を分析し評価するための概念としては扱いが難しいということが認識されてきました。しかしながら、概念の全体を十分に理解し注意することにより、民族は他の表現では代替できない非常に有用な概念となります。本シンポジウムでは、国家や権力主体が民族を単位にした市民・国民への作用に注目し、人々と国家との関係のなかで民族が実体化されている諸相を明らかにします。公式、非公式な関係を通して、民族の存在が人々のなかで意識されていく過程を考えます。

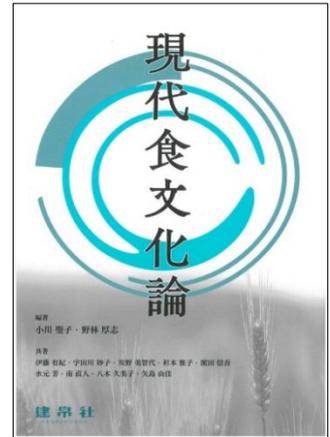
日時	2024年11月30日(土)、12月1日(日)10時~17時
会場	本館2階第4セミナー室
言語	日本語・英語(日英同時通訳付き)
主催	国立民族学博物館
定員	60名(要事前申込み/先着順)
参加費	無料
申込期間	11月22日(金)まで

— 野林 厚志(学術資源研究開発センター 教授) —

6. 最新の研究紹介

『現代食文化論』

(小川聖子、野林厚志 編／建帛社)

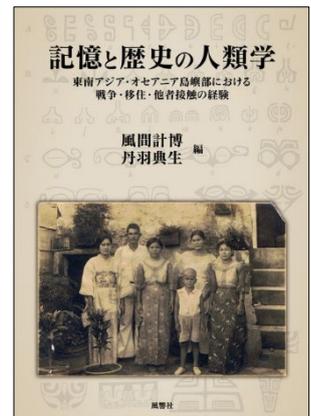


— 野林 厚志 (学術資源研究開発センター 教授) —

『記憶と歴史の人類学』

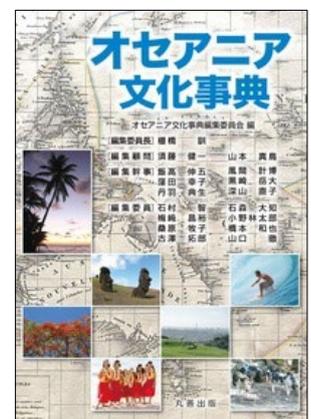
——東南アジア・オセアニア島嶼部における戦争・移住・他者接触の経験』

(風間計博、丹羽典生 編／風響社)



『オセアニア文化事典』

(オセアニア文化事典編集委員会 編／丸善出版)



— 丹羽 典生 (グローバル現象研究部 教授) —

『産後の〈風〉——病いの語りからみる韓国社会とジェンダー』

(諸昭喜 著／春風社)



— 諸 昭喜(グローバル現象研究部 准教授) —

能登半島での文化財救援活動の近況報告

石川県・能登半島で文化財レスキューに携わる日高真吾教授が近況を報告します。

— 日高 真吾(学術資源研究開発センター 教授) —